Kads MIIDA

カッズ ミイダ

The Real Face

20歳前後までを京都で過ごし、素晴らしい仲間に恵まれながらも、元来の外へ向く意識を心に東京へ、そしてジャマイカへ渡った。現在を代表するイラストレーターの京都凱旋と個展へ込める想い。

取材・文／竹中 聡（本誌） 撮影／畑中勝如

デプトやウーピーズを溜まり場に、モッズから始まる絵描きの系譜。

ジャマイカやラスタマンをモチーフにしたイラストを代表作とする。ブランド「ALBA ROSA」のイメージポスターや、今年のコカコーラのTシャツコレクション、ビームスのTシャツコレクション「BEAMS T」に含まれる自身のブランド「SATTA」などが特に有名であろう。

「モッズだったんスよ（笑）」。人の経歴とは意外なものである。長岡京市に生まれ、18～19歳頃には街に出て遊んだ。「アイビーとパンクが混ざったのがモッズやと思ってましたね。ロンドンの下町の雰囲気。街が古くて、閉鎖的で、文化が煮詰まってて、どこかにヒネリを入れないと気が済まないひねくれてるところが京都と似てるでしょ（笑）」。スクーターで街なかへ来ては、デプトを溜まり場にしていた。DCブランドやニューウェーブ、夜遊びはディスコ全盛という頃、「モッズがディスコ行っても浮くし、ウーピーズぐらい」。折しも昨月の本誌「MOJO WEST Chronicle」コーナーで紹介したウーピーズの元マネージャー・エディ氏が言っていた「音楽だけ聴きに来るんじゃない、着るものも気にして遊ぶ、粋な子たち」そのものである。ステレオタイプのフーやジャムだけでなく、'60年代のモータウンから始まるブラック・ミュージックを、ポップなものから泥臭いものまで聴きまくった。そしてレゲエにも行きついた。それが文頭にあるような現在の作風に繋がるのだが、その道中には紆余曲折の物語がある。

むしろ京都がすごく好きやったから、ぐちゃぐちゃにする必要はない、と。

当時一世を風靡したキース・ヘリングにも衝撃を受けた。「このぐらいのパワーが要るよなぁ、と。でも京都でこれをやっても嫌がられるし。むしろ京都が好きだったから、無理にこの街でぐちゃぐちゃにする必要はないかな、と。前後するが中学の頃、1カ月ほど親に無理を言って渡米した経験がある。親戚のお坊さんが、カリフォルニアにいたのだ。彼の地では、全ての人の意識

Kads MIIDA（カッズ ミイダ）

本名・三井田一成（みいだ・かずしげ）。'64年、京都府長岡京市生まれ。東京造形大学卒。記憶は無いが物心つく頃には画を描き始め、「自分は画の仕事いつかするんやろな」と決めていた。大学卒業後はデザイン会社に就職。その後フリーに。ドローイング・版画・Tシャツプリントなどをこなす。都会のコンクリートジャングルで生きる人も、プリミティブな感覚を持つと信じる意味を込めた「JUNGLE」と「SHANGRILA」を合わせた「JUNGRILA」という個展を全国で開催中。今月遂に京都に凱旋。談笑するのはSHANDIHら、20年来の友人たち。

http://www.kads.net

が外を向いていた。その頃に「京都を出たい」と思っていたのかもしれない。大学進学は東京に決めた。「単純に国際空港があるのが東京やったから（笑）。関空ができたとき、親戚は『もぅえぇやろ、帰ってこい』と（笑）」。

大学を出て、会社勤めを辞めて後、バイトしては作品を描いて…という生活が続いた。少し金を貯めたら外国に行き続けた。実はジャマイカよりも先に渡航したのはモッズの聖地・イギリスだった。「そこはやっぱり義務感というか（笑）」。ロンドンの下町にブリクストンという街がある。ある日、移民地区でもあるその街を訪ねた。そこで出会った街中にレゲエが鳴り響く様子。まさにリトルジャマイカ。その街の地下鉄で、「ジャマイカへ行こう」と書かれたエア・ジャマイカの看板広告を見つけた。突如、愕然とした。「何でイギリスにいるんやろ？」。ボブ・マーリーを決定打に、「タイド イズ ハイ」を唄ったパラゴンズ、映画「ロッカーズ」や「ハーダー ゼイ カム」で観たジミー・クリフ…。誰が唄ったというよりも、あの頃とにかく没頭したレゲエ。自分の血管や骨髄にまで流れた音とリズム…。違法ではあるがイギリスでバイトを始め、渡航費を貯めて直接ジャマイカへ。初めてその地面を踏んだ。「本当に涙が出そうでしたね」。

自分が何者かを問えば深遠すぎるが、何故画を描くかは解った気がした。

ジャマイカをリスペクトする人はみな、必ず自分のルーツを考えさせられるという。「レゲエは酒飲んで聴いて、何となく楽しいだけの音楽じゃない。ちゃんと黒人たちの『オレ達の原点、アフリカに回帰する』というバックボーンと意味があって聴く音楽なんや、と。彼らがドレッドヘアで生きてるには理由があるわけです。ファッションから始まって僕らも追いかけてみるけど、人類の歴史の発祥はアフリカだとしても、僕の国の歴史は違う。エチオピアにも旅してみて、ジャマイカからエチオピアに移り住んだラスタマンと話した時にね、なんでかな『もう日本に帰っても大丈夫や。真面目に伝えたいことを貫けばいい。食えようが食えまいが、自分は間違ってない』と思えた瞬間が来た」。彼もまた、答えを見つけた一人だ。

「自分は何者？」を考え出すと深遠に過ぎる。だが彼の場合は「何故描くのか」が解った。この世界に生まれた自分に与えられた役割は何だ？ 職業として食うため以外に、何のために描いているか。自分の画を見て滅入るような、人を殺そうと思われるようなものは描きたくないとは思うが、「描かなきゃいけない」というシンプルな衝動と、確信する自分の才能は使わなければならない。それだけを思う。文字でも音でもない、画で伝える術だけを考えている。ジャマイカという国には何かがある。その何かの説明を試みるのは愚行であろう。その頃を境に、抽象的な画風は南国テイストになったという変化以外に、彼の考えを知る術はない。

才能に自信がある。だから義務がある。魂は売るのではなく、込めるもの。

多のクリエイティブな職業と同じく、イラストも広告の方が収入は安定する。それは「魂を売ることだ」と言う人もいる。「そういう選択をしなければならない場所に自分を置かない努力も必要だとは思いますけど、何で真面目に売らへんねん？ と思う。魂を売らずにどうしてお金を貰えるんや、と。売ると決めたら力いっぱい売るべき。売ったら次のソウルが出てくるんです。枯れてしまうことは絶対にない。次が沸いてくる」。そう力説する。魂は売るのではない。込めるのだと。逆に個展を開いて作品で勝負する場合は不安どころか出費の方がかさむ場合が多い。第一子の誕生で、正直少し迷った。だが今こそ個展をやるべき。そう決めて以来毎年個展を開催している。「これから個展のツアーに出る。でもその分絶対持って帰ってくるから」と言って家を空ける。強く信じて旅に出る。

20年を経て、ようやく決心がついた。今月、初めて生まれ故郷で個展を開く。

20歳前後を供に過ごした素晴らしい仲間たち。ただ中身は濃くなっていくけれども、それが当時は広がっていく気がしなかった。京都の人の集まりも盆地のようだ。手を繋ぎ、肩を組み輪を作る。だがその輪は外側を見ない。濃度は増すが、輪そのものが積極的に大きくなっていくことはない。その煮詰まった文化に「それは京都の特質だと思うんやけど、これはもうどうにもならんな、と」。そう思った。そして東京を選び、ジャマイカを選び、今がある。そして久しぶりに帰った京都で友人たちと会う。「名古屋で止まったり、逆に大阪や神戸に飛んだり、今までは微妙に京都を外して個展をしてきたんですよね」。20年前は内向きと思った輪だが、今はそうは思わないし心地よい。時は満ち、今月、京都で開催する個展には格別な想いがある。個展のタイトルには、今回のみ「LIFE」の文字が加わる。どの土地よりも力を込めて画を見てもらえるこの街に感謝している。むしろ京都を外から見てきた自分が外に引っ張り出してあげられることもあるだろう。「『京都でこんなん見せてもどうせ解ってもらえへんしなぁ』ってひねくれてちゃ昔のままですしね（笑）」。そう思えるのは、それぞれが良い大人になったからだ。恐らく、後になっても100%だと思える作品が今はある。

「Bless Up !!」。ラスタマンたちが、互いに敬意を持って交わす挨拶だ。「オマエに神様の恵みを。そして全て上手くいくように」。そんな意味である。

彼に影響を与えたラスタマンたちも今の彼を見れば、笑ってその挨拶を求め、拳を合わせてくれるに違いない。

information

"Kads MIIDA" Exhibition
「JUNGRILA LIFE」in KYOTO
11/2（火）～7日（日）「同時代ギャラリー（075-256-6155）」

"Bless Up!!"
油絵・シルクスクリーンプリントを含め、ジャマイカをテーマにオレンジ・緑・茶といったアースカラーを使って描いた最新作を中心に個展を開催。2日のイベントには、旧来の友人でもあるSHANDI-Iらとともにライブペインティングで参加。
インフォメーション■http://www.vibes.jp
http://www.kette-online.com

※他券併用不可。 ※有効期限は、04年11月30日迄です。

台所祭

京都CFを持参し、御来店下さい。

tel.075-213-2816
OPEN.17:00～5:00
1,000円Off
朝五時までやっている。
本 本店

tel.075-211-9558
OPEN.18:00～3:00
1,000円Off。
木の温もり、焼酎40種類
5963 五

tel.075-213-5302
OPEN.18:00～3:00
1,000円Off。
木屋町の隠れ家的な存在。
穴 四条 穴

tel.075-241-2466
OPEN.17:00～2:00
1,000円Off。
自慢の炭火焼きが自慢。
呑底 炭

tel.075-213-4135
OPEN.17:00～2:00
1,000円Off。
デートや記念日や
カップルシート
創 たなべ

tel.075-221-2232
OPEN.11:30～24:00
ランチタイム100円Off。
ディナータイム1,000円Off。
grotto 侍
DAIDOKOYA grotto

結婚式の二次会やパーティが出来る30名以上で貸切可。
tel.075-344-5820
OPEN.10:00～24:00
ALL TIME100円Off。
Obyan Cafe
七条大橋、北西角にOPENしました。

Sanjyo st.
Kyougoku st.
Kawaramachi st.
Kiyamachi st.
Pontcho st.
Shijyo st.
ローソン
灰 3F
五 2F
岩井綿場
あじビル
本店
BAL
LOFT
文
穴 2F
創
OPA
木屋
高島屋
阪急

ホームページ www.daidokoya.co.jp